

「ヒノヒカリ」後継の水稻新品種 高温登熟耐性・病害虫抵抗性に優れた多収品種 『ひなたまる』

【特 徴】

- ①高温登熟条件下で良質 ②トビウナ・葉いもちに強い
③ヒノヒカリより2割以上多収で、同等の食味

1. 特性一覧表 (2017~2024※2019除く)

品種名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	耐倒 伏性	精玄米 重 (kg/㍗)	同左 比 (%)	玄米千 粒重 (g)	葉いも ち圃場 抵抗性	高温 耐性	トビウ ナ抵抗 性	検査 等級	食味総 合評価
ひなたまる	8.24	10.03	76	18.9	332	やや弱	59.5	120	24.3	かなり強	やや強	やや強	2等上	+0.363
ヒノヒカリ	8.25	10.04	80	19.0	365	やや弱	49.4	100	21.6	かなり弱	弱	中	2等下	+0.325

注1) 施肥量は、窒素成分(kg/10a)で、基肥-中追-穂肥 4.0-2.0-3.0 合計9.0である。

2) 精玄米重は、1.8mm篩による上玄米重、水分15.0%換算で示した。

3) 検査等級は(1)1等上~(4)2等上~(7)3等上~(10)規格外で示した。

4) 食味総合評価は、一般財団法人日本穀物検定協会九州支部による2020~2023産食味官能試験結果の平均値であり、全ての商品进行评估するものではない。

基準品種は、当該年産複数産地コシヒカリのブレンド。

2. 高温登熟条件下でも、 外観品質が優れる！！

白未熟粒
が少ない



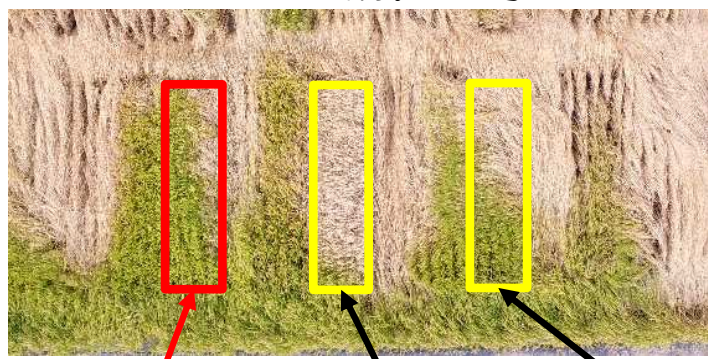
ひなたまる

白未熟粒



ヒノヒカリ

3. トビウナの被害に遭いにくい



ひなたまる さがびより ヒノヒカリ

注1) 2022年度トビウナ検定圃場(佐賀農試)

2) 9月13日空撮、早植え・密植・多肥栽培・無防除

【栽培のポイント】

- ①移植時期：6月20日頃(平坦部)
- ②栽植密度：60~70株/坪(偏穂重型品種で穂数確保のために疎植は避ける)
- ③施肥：ヒノヒカリと同量(窒素成分(kg/10a)で基肥-中追-穂肥 4-2-3)
- ④刈取時期：出穂後45日以降に行う(積算温度1100℃以上がベスト※暫定)
- ⑤その他：紋枯病の発生が懸念されるため、防除を行うとともに多肥栽培を避ける。